

# 奈良大文字保存会

代表者 鍵田忠兵衛

所在地 〒630-8228 奈良市上三条町23-4 奈良市観光協会内

設立年月日 1961年04月01日

## 【設立趣旨】

奈良大文字保存会は奈良県出身の戦没者の霊を慰めるため、毎年8月15日に大文字送り火を行うとともに奈良観光の発展に寄与することを目的として昭和36年に発足いたしました。現在役員は会長1名、副会長3名、相談役2名、理事34名、監事2名、幹事5名。役員は地元関係者、遺族会関係者、観光事業関係者、社寺関係者等多岐にわたる分野の方々に構成されています。事務局は社団法人奈良市観光協会内に置いています。

## 【沿革】

戦後10年ほど経った頃、肉親や戦友を戦争で亡くした故鍵田忠三郎氏（後の奈良市長）が、幼い息子に「英霊って何？」と問われたことを機に、やがて戦争を知らない世代が日本を支えていき、それとともに戦争の痛ましさや忘れ去られ、戦没者に対する敬意も失われてしまうことを憂いて、昭和31年に送り火の実施を思い立ちました。当初は若草山の丘陵に続く大坊山で行う予定でしたが、その地が東大寺の旧境内を含んだ土地であったため許可がおりず、場所を高円山に変更し、昭和35年ようやく第1回目の奈良大文字送り火が実施されました。英霊供養とともに、平和のありがたさを再認識していただくために、実施日を終戦記念日である8月15日に設定、より多くの人々に見ていただき、合掌していただきたいという願いから当時日本最大の大きさに作られました。初年度は創始者を初めとする有志だけで実施、翌昭和36年に保存会が発足されました。送り火を点火する場所も当初は土を掘っただけの簡易な火床でしたが、30周年を機にコン

クリートで固め、現地への進入路も併せて整備しました。それ以降10年ごとに劣化した部分の整備をし、防火や安全に努めています。送り火が行われる高円山は歴史的風土特別保存地区であり、古都保存法による第1種の風致地区でもあるため、



図1：高円山火床

従来であればこうした整備や火を扱うことは禁じられておりますが、行事の創始のほうがか法の制定より早かったため、こうした特殊な場所での実施がなっています。この土地も近年まで民有地でしたが、所有者よりの寄付により「大」の字型に奈良大文字保存会の管理地となり（※登記は社団法人奈良市観光協会）、周辺土地は県有地となりました。（図1）現在は慰霊行事としてだけではなく、古都奈良の夏の風物詩としても親しまれています。（図2～3）

## ●奈良大文字送り火の特色

（図4～5）

他都市の大文字送り火にはない特は、点火前に送り火が臨める春日大社境内飛火野において実施される慰霊祭にあります。春日大社の神官によって神式の祭儀が執り行われ、引き続き市内30ヶ寺の



図3：薪をくみ上げる地元有志の方々

僧侶による仏式の法要が執り行われます。すなわち同じ祭壇に向かい、神事と仏事が行われる大変珍しい形式なのです。仏式においては30名の僧侶が宗派を問わず、一堂に会して法要を行っており、社寺行事の多い奈良でもこれは異例のことです。また、仏式において奈良県出身の戦没者29,243柱のお名前を奉読することも特徴のひとつです。これら全て「宗教も宗派も問わず、平和を祈ろう」という大いなる趣旨によるものです。



図4：神式と仏式による慰霊祭



図5：仏式慰霊祭によるものです。

## 【活動目的】

世界平和を願うと共に、奈良県出身の戦死戦没者の霊を慰めるため、毎年8月15日に大文字送り火を行い、奈良の観光事業発展に寄与することを目的としています。

## 【活動内容】

近年は奈良大文字送り火の実施に伴う事業だけではなく、本行事の意義を後世に伝えるため地元の小中学生並びに高校生の体験学習や大学生のインターンシップ実習の受入も行なっています。

- ① 奈良大文字保存会理事会の実施
- ② 体験学習やインターンシップ実習の受入
- ③ 奈良大文字送り火行事の広報活動
- ④ 奈良大文字送り火祈願参拝の実施
- ⑤ 奈良大文字慰霊祭の実施
- ⑥ 奈良大文字送り火の実施

上記に加え、平成21年は行事の第50回目を記念し、自衛隊音楽隊と平城遷都1300年祭マスコット、平城遷都1300年祭オフィシャル広報隊の踊り隊のパレードや自衛隊音楽隊による野外演奏会の実施。高円山現地を訪ねるツアーの実施をしたほか東京日本橋での広報展示等も実施しました。

## 【活動上の課題と今後の展望】

景気の後退により年々協賛金が減少してきており、必要経費の捻出が困難になってきています。また、近年来来場者が若年層に変化してきたため、この行事の趣旨をいかに伝えていくかが課題となっています。奈良大文字送り火をより多くの方々に知っていただき、大いなる趣旨を次世代へと伝えていきたいと思っております。



図2：浮見堂からのぞむ大文字送り火